

学校自慢

多様性を認め、思いやりを持って 互いに協力し合える生徒を育てるために

匝瑳市立八日市場第一中学校校長 さなだ 真田 ただゆき 忠之



1 はじめに

本校は全校生徒数271名、本年度創立65年目となる。本校には気持ちが穏やかで素直な生徒が多く、毎日落ち着いて学習に取り組んでいる。また、明るい挨拶が交わされ、学校行事でも生徒が生き生きと主体的に活動する雰囲気が定着している。

本校は令和3年度に千葉県教育委員会より特色ある道徳教育推進校の指定を受け、令和4年度には公開授業を行っている。さらに、令和5年度には千葉県教育委員会より心のバリアフリー教育地域拠点校の指定を受け、生徒の豊かな心を育てる取組に力を入れている。学校教育目標の一つに「友愛」を掲げ、目指す生徒像の一つを「多様性を認め、思いやりを持って互いに協力し合える生徒」としている。その実現のために行っている取組について幾つか紹介したい。

2 本校の取組

(1)福祉施設との交流

例年10月に行われる近隣の福祉施設「しおさいホーム」の秋祭りに運営ボランティアとして参加している。生徒会奉仕委員会を中心に参加生徒を募集し、当日は会場設営やゲームコーナーの運営のほか、福祉施設入所者に一对一で付き添い、売店での買い物や催し物の参観等の補助をしている。

一对一の対応では、最初は戸惑いを見せていた生徒も次第に声かけにも慣れ、相手の動きを待ったり、丁寧に意思を聞き取ったりすることが自然にできるようになり、相手の立場に立った思いやりを具体的に実践する貴重

な機会となっている。

(2)特別支援学校との交流

11月には、近隣の県立八日市場特別支援学校の文化祭に運営ボランティアとして参加している。特別支援学校生徒が制作した作品の販売やゲームの進行等の補助が本校生徒の主な役割である。

この活動も、互いの学校の生徒同士はもちろん、文化祭に訪れた一般の方々ともコミュニケーションを取る経験を通して、本校生徒にとっては他者との関わり方を学ぶよい機会となっている。

(3)あすチャレ！スクール体験型授業の実施

昨年度12月には、日本財団パラスポーツサポートセンターの「あすチャレ！スクール」を活用し、パラスポーツの一つである車椅子バスケットボールの体験型授業を行った。

生徒は車椅子の特徴や操作の仕方、競技のルール等についての説明を受け、その後、実際に車椅子に乗って競技を体験した。また、夢を実現するためにはどうすればよいかということについてもパラアスリートと一緒に考え、自身の生き方を見つめ直す機会となった。

3 おわりに

前述のように、本校には素直な生徒が多い。

だからこそ、意図的に機会を設定することで生徒自身がそこから得るものも大きいと考えている。多感な中学生の時期に様々な体験をし、自分とは違う立場、違う個性を持つ周囲の方々と接することで、適切なコミュニケーションに欠かせない「相手を思いやる気持ち」を、身をもって学んでほしいと願っている。